

和歌山ものづくり文化祭2022 実施報告書

和歌山オープンファクトリー推進委員会

2022年12月10日

「ものづくりの未来を創る、体験と学び」

木工、漆芸、金属加工、繊維・・・

和歌山県北部には、地域資源を活かし技術を培ってきた多くのものづくり企業があります。そして、その企業の数だけ、そこで働くひとの卓越した技があります。

和歌山ものづくり文化祭は、普段は立ち入ることのないものづくりの現場を一堂に集め、それぞれの道を究める職人と直接話し、技を見て、そして体験できる場所です。

和歌山にこんな技術を持った企業があったんだ。
自分たちのまちに、こんなカッコいい職人がいるんだ。
ものづくりって、こんなに難しくて、そして楽しいんだ。

リアルな体験でしか得られない学びを、職人自らが地域の人々に伝えることで、私たちのものづくりを身近な存在と感じていただきたい。

そして、産地としての和歌山を次の未来へと紡ぐための、新しい文化を育みたい。そのためのさいしょの一步となる試みが、和歌山ものづくり文化祭です。

◆ 開催概要

- 名称 : 和歌山ものづくり文化祭2022
- 会期 : 2022年11月5日(土)～6日(日) 10:00～17:00
- 会場 : 和歌山城ホール (和歌山市七番丁25番地の1)
- 主催 : 和歌山オープンファクトリー推進委員会
- 制作 : 合同会社WAKAYAMA WOODYS (運営ディレクション)
株式会社ハクシャ (アートディレクション)
- 協賛 : きのくに信用金庫・和歌山トヨタ自動車株式会社・株式会社仕事旅行社・
株式会社タカショーデジタル・アンドユー・リコージャパン株式会社
- 協力 : 南海電気鉄道株式会社・株式会社ワカヤマヤモリ舎
- 後援 : 近畿経済産業局・独立行政法人中小企業基盤整備機構近畿・和歌山県・和歌山市
※ 令和4年度地域・ひと・まちづくり補助事業 (補助率1/2、上限100万円)
- 出展企業 : 20事業者 (大学プロジェクトを含む)
- ブース数 : 16ブース
- 実施内容 : 和歌山のものづくり企業によるワークショップまたは製作実演
和歌山で作られる商品(日用品や工芸品)の販売

◆ 実施実績

来場者数*

のべ **5803**名

1日目 のべ2707名

2日目 のべ3096名

*入場口に設置した人流測定カメラで計測

売上総額

2,948千円

うち体験売上は1,599千円

キャッシュレス率33.56%

学生ボランティア

15名

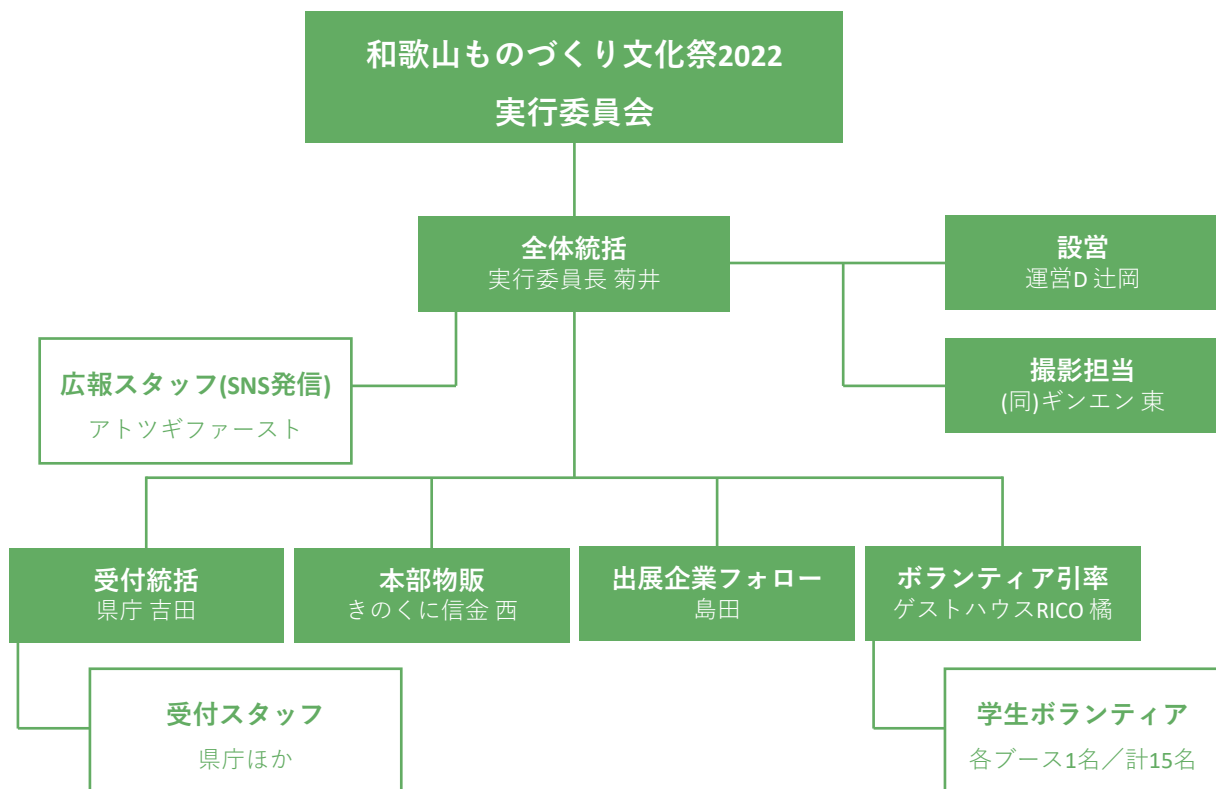
各企業スタッフとして
県内外から参加

メディア露出

25件以上

11月30日現在
NHK関西、朝日新聞、毎日新聞等

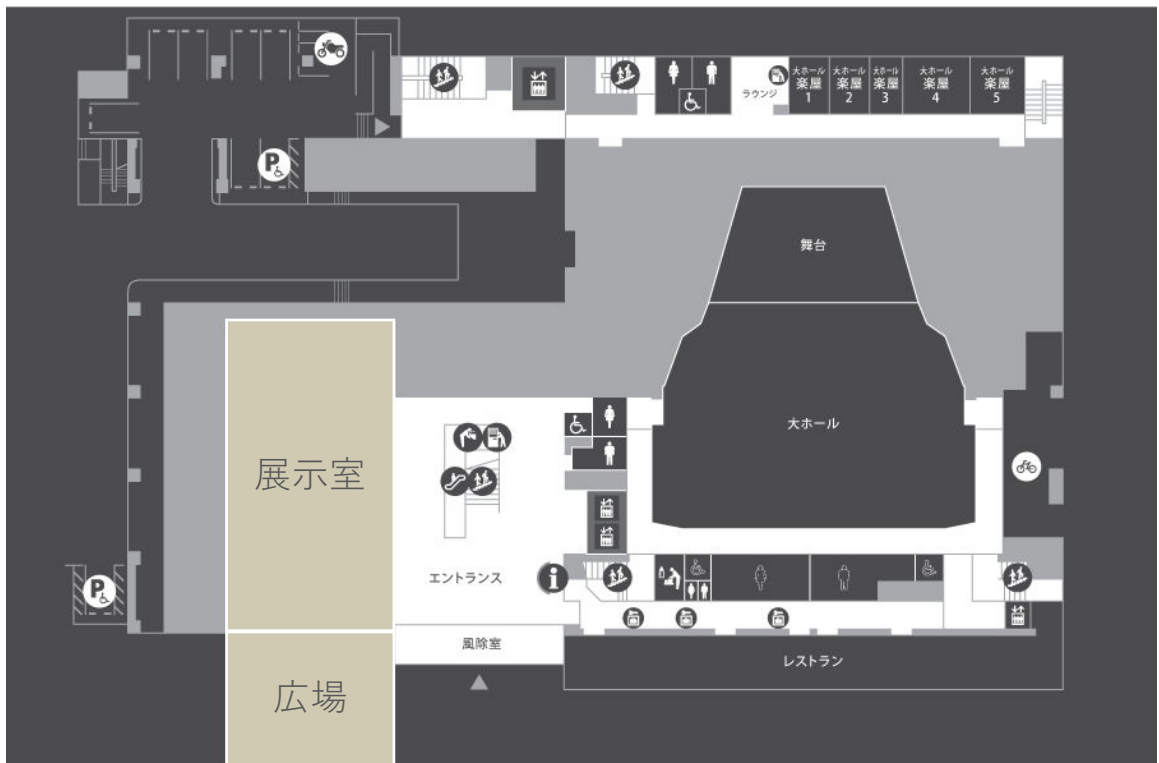
◆ 当日運営



◆ 会場ロケーション

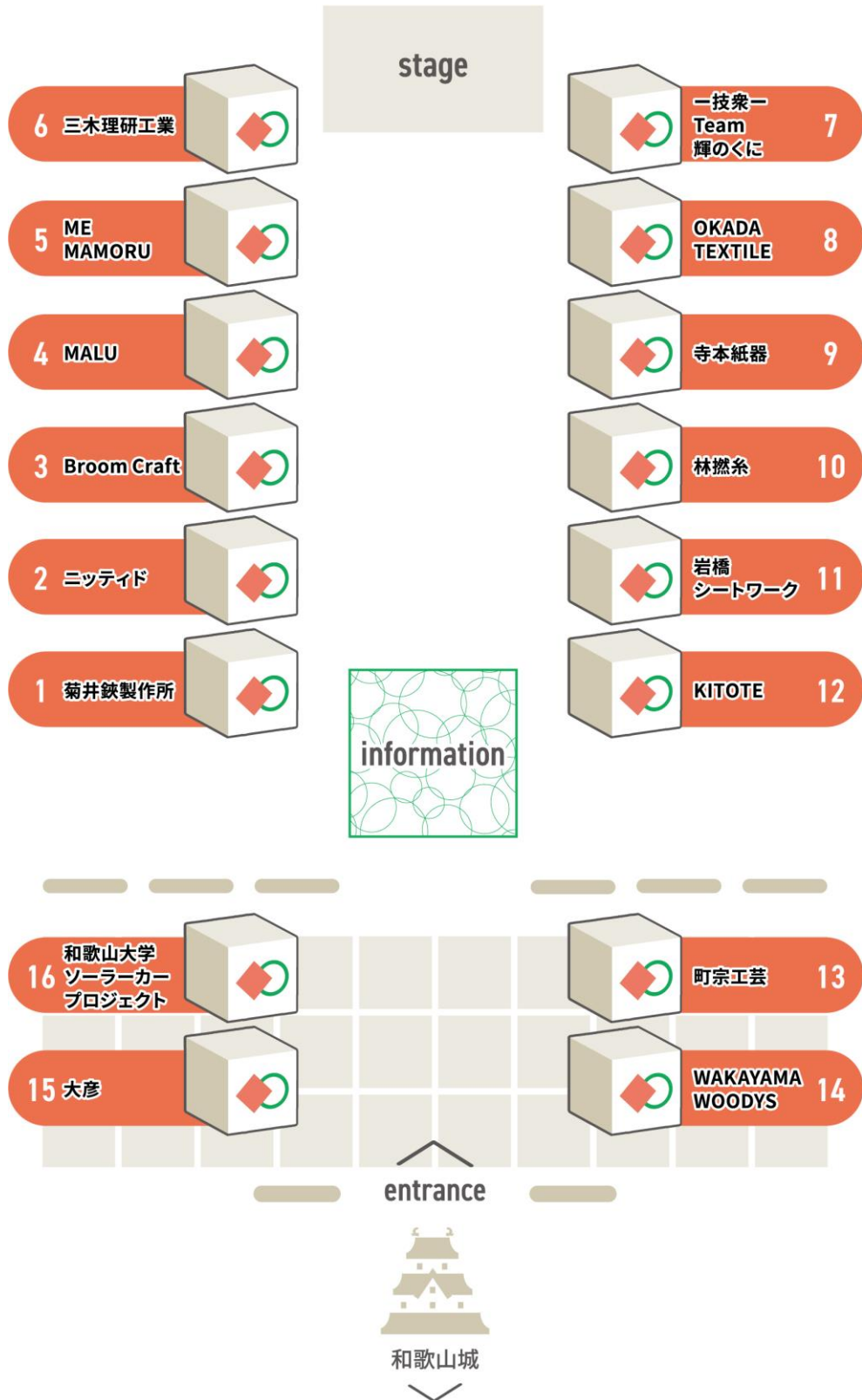


◆ 使用フロア図



- メイン会場 1F展示室 + ホール前広場
- 休憩室 4F工房

◆ 会場レイアウト



◆ 記録写真 体験ブース



匠の道具でキーホルダー作り | 2,000円
菊井鋏製作所



5本指靴下の職人技にチャレンジ | 1,000円
ニッテイド



キッチンブラシを作ろう！ | 880円
Broom Craft (深海産業)



極上素材に触れてみよう！ | 無料
MALU (エイガールズ)



伝統工芸士と作る桐箱体験 | 5,000円～
ME MAMORU (家具のあづま)



研究者になってスライム体験 | 1,000円
三木理研工業



輝り、金型職人の研磨技術体験 | 2,000円
一技衆一 Team輝のくに



エコファーボール作り | 2,000円～
OKADA TEXTILE (岡田織物)



明かりをデザインしよう！ | 1,500円
寺本紙器



糸作りから考えるオーナメント | 100円
林撚糸



曲げて組み立てるLEDランタン | 2,000円
岩橋シートワーク



組子コースターを作ろう！ | 500円
KITOTE (中井産業)



曲げわっぱ絵付け体験 | 3,000円～
町宗工芸



シルクスクリーンでバック作り | 1,000円
WAKAYAMA WOODYS



伝統技「墨付け・手刻み」の棟上げ | 実演
大彦



ミニソーラーカーを作ろう！ | 1,500円
和歌山大学ソーラーカープロジェクト

◆ 記録写真 会場全体



全体写真① 屋外広場



全体写真② 展示室内から屋外の光景



全体写真③ 展示室内



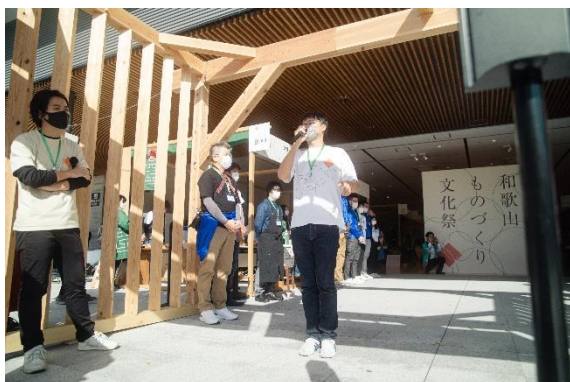
全体写真④ 開場前のようす



パネルサイン(3m×3m)



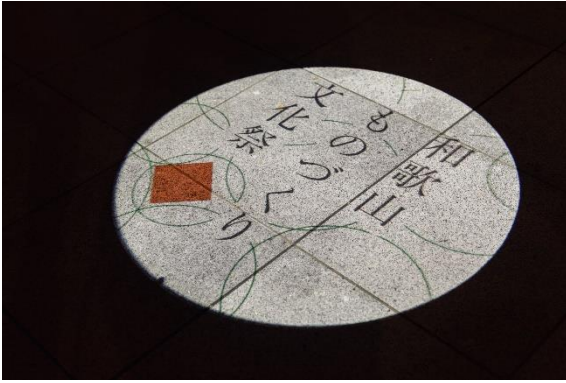
各社ブース



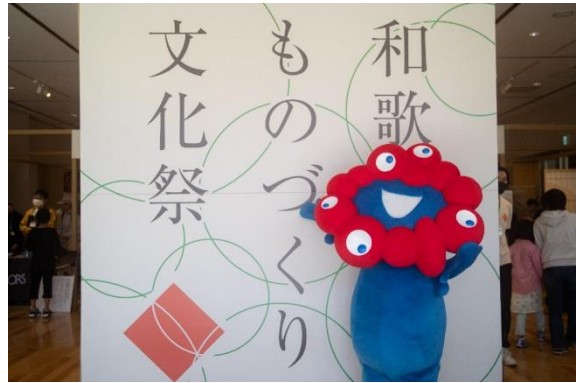
開会宣言(11月5日)



本部(実行委員会・県庁・きのくに信用金庫)



ライトアップ((株)タカショーデジテック協賛)



ミヤクミヤク会場グリーティング(11月5日)



ライブアート① SOUL FLOWER



ライブアート② 石田延命所



出展企業・実行委員会・ボランティアスタッフ 集合写真

◆ 制作物(紙媒体)

A4フライヤー 10,000部



A2告知ポスター 100部



B2駅用ポスター 20部





表面

裏面



←中面：企業紹介ページ



文化祭の次は、産地を訪ねよう。

参加事業者 20社を身近に感じていただくべく、締め切るだけではない「もの文 2022 マップ」を作りました。もの文が分れるほど、地元文化にも触れるものづくりの世界は、きっと新しい発見や思いに出会えます。お楽しみものづくり文化祭で出会った人々たちをもっと知るために、ぜひお楽しみものづくりの産地を訪ねてみてください。



文化祭で出会った産地を訪ねよう



和歌山ものづくり文化祭を楽しんだあなたは、11月6日(日)に海部町で開催される「ふるさとまつり」にも足を伸ばしてみよう。楽しみながら、お楽しみものづくり文化祭で出会った人々たちをもっと知るために、ぜひお楽しみものづくりの産地を訪ねてみてください。



和歌山産物キー 1,000円分 使えます!

中面：産地マップ、アンケート、黒江るるるスタンプラリー →

◆ 制作物(公式Webサイト)

和歌山ものづくり文化祭

和歌山ものづくり文化祭

2022 11月5日(土) 11月6日(日) AM 10:00 - PM 5:00 入場無料

和歌山城ホール 1F 展示室

ものづくりの未来を創る、体験と学び

和歌山ものづくり文化祭2022とは…

「ものづくりの未来を創る、体験と学び」をテーマに、和歌山県北部の伝統産業等をはじめとする製造業が一堂に集い各社の技術をその場で体験し楽しめる、和歌山で初めての「ものづくり企業がつる、体験参加型イベント」です。

木工、漆芸、金属加工、繊維…
和歌山県北部には、地域資源を活かし技術を磨いてきた多くのものづくり企業があります。そして、その企業の数だけ、そこで働く職人の数も膨大な数があります。

和歌山ものづくり文化祭は、普段は立ち入ることのないものづくりの現場を一室に集め、それぞれの道を究める職人と直接話し話を見て、そして体験できる場所です。

和歌山にこんな技術を持った企業があったんだ。
自分たちのまちに、こんなすごい職人がいるんだ。
ものづくりって、こんなに楽しくて、そして楽しいんだ。

リアルな体験でも得られない学びを、職人自身が地域のみんなに伝えることで、私たちのものづくりを身近な存在と感じていただきたい。
そして、産地としての和歌山を次の未来へと繋ぐための、新しい文化を育みたい。
そのため「さいしょ」の一歩となる試みが、和歌山ものづくり文化祭です。

出展者

- OKADA TEXTILE: オリジナルのエコファッショボールを作る!
- ニッテイド: 5年経ったの職人技にチャレンジして本格職下をゲットしよう!
- ハサミ職人になりきり! 匠の道具を使って刷印入りキーホルダーを作ろう!

TOP ページ
<https://w-monodukuri.com>

菊井鋏製作所

和歌山ものづくり文化祭

ハサミ職人になりきり! 匠の道具を使って刷印入りキーホルダーを作ろう!

製作時間: 30~45分 | 費用: 2,000円

高品質のハサミを作るための「匠の道具」を使って、アルミキーホルダーを作ってみましょう。コンパクトでかわいいと、最初はいい感じだったアルミがだんだん平たく、その入付口のセンターの線が「ハサミ」の形に近づいていっていき、上蓋を動かしているのが驚くほどわかるようになっていきます。

最後に好きなことを刷印してデザインを添わせ、世界にひとつだけのキーホルダーの出来上がり。アルミは丈夫な素材で、出来上がるころには結構な重さを感じているのが驚くほどわかるようになっていきます。

加工しやすいアルミの特性に挑戦しながら、普段はハサミ職人がどうやってものづくりをしているのか、どうしてこの道具を使っているのか、そういったお話を楽しく聞かせていただきます。

※参加費無料、利用してもいい服装でお願いします。

注意事項: お子さまでも参加いただけますが、集中力が必要なため小学生以上がおすすめです。得意な方もも参加いただけます。お子さまの「ハサミ」に使用するお申し込みの時点でお申し込み、終了まで20分ほどお待ちいただく場合がございます。

【予約について】
 予約優先/申し込み可(先着順) 参加費2,000円にて受け付けております。

その他の出展ブランド一覧

和歌山県北部の中心まちづくり推進事業
 主催: 和歌山県庁・和歌山県北部振興局
 共催: 和歌山県産業振興局・和歌山県北部振興局
 協賛: 和歌山県産業振興局・和歌山県北部振興局

PARTNERS

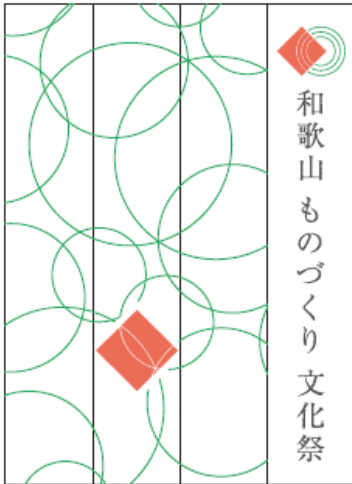
協賛

- 和歌山県信用金庫
- 和歌山トヨタ
- 仕事旅行社
- DiGiTEC
- アンドユー化粧品
- リコージャパン株式会社

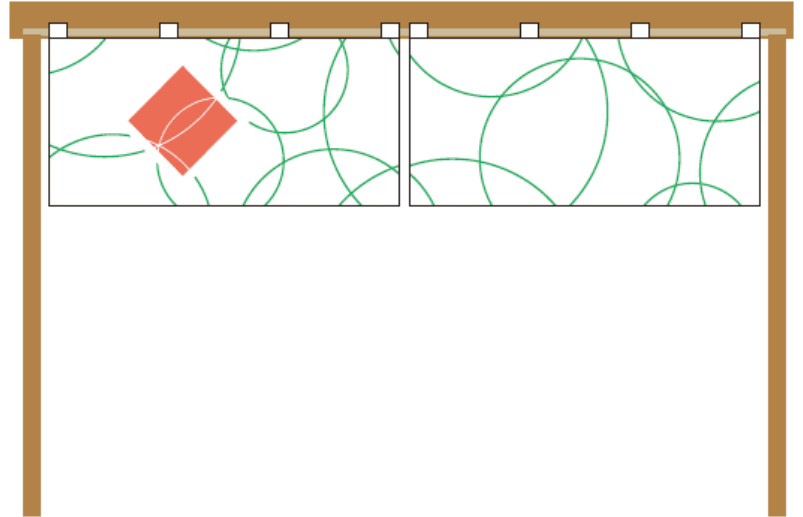
出展者紹介ページ

◆ 制作物(会場内サイン)

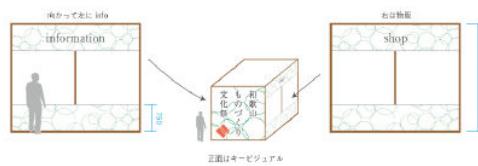
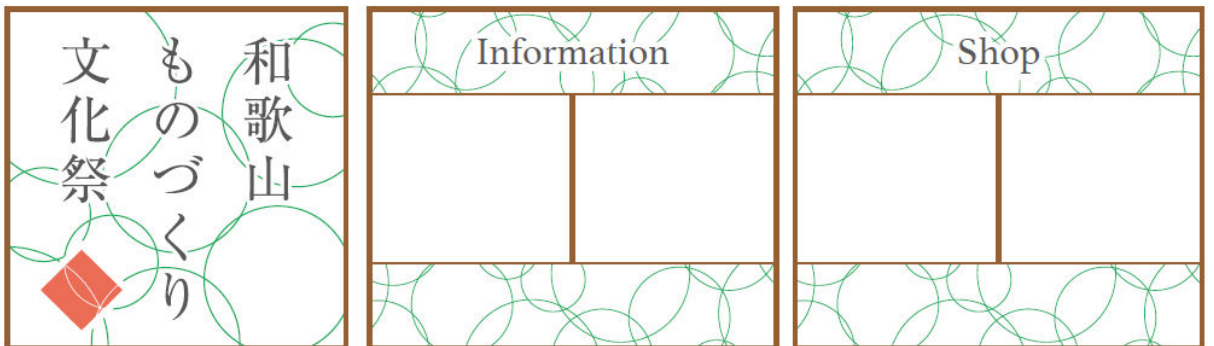
柱サイン × 2



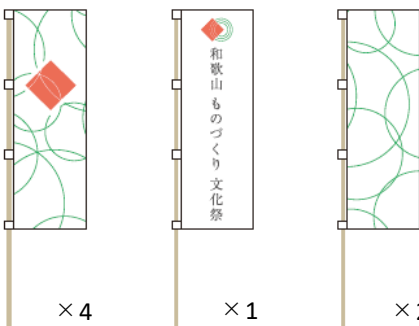
暖簾



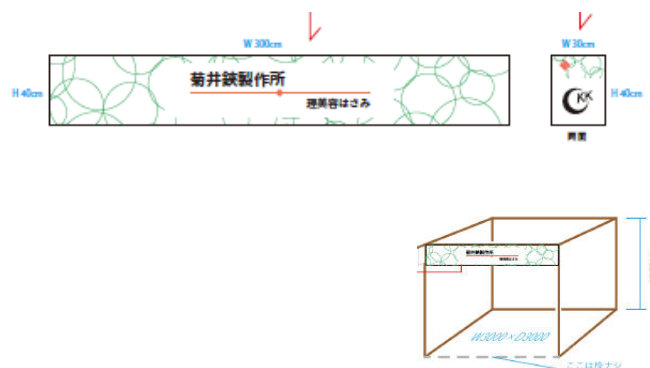
本部ブースおよびタイトルサイン



のぼり



ブースサイン



◆ 事前告知

蔦屋書店 和歌山市民図書館店
2022年10月3日～10月31日



JR和歌山駅 デジタルサイネージ
2022年10月3日～11月6日



近大附属和歌山中学校・高校



わかやま産業振興財団



配布先(一部抜粋)

和歌山県
和歌山市
近畿経済産業局
中小機構近畿
近大附属中学・高校
桐蔭中学・高校
京都伝統工芸大学校
京都美術工芸学校
大阪美術専門学校
和歌山県立工業高校
きのくに信用金庫
ゲストハウスRICO
和歌山トヨタ自動車
WBS 和歌山放送

フライヤー

800
500
200
100
200
200
125
125
60
250
200
150
300
500

ポスター

4
5
3
3
2
1
2
2
1
3
3
1
5
1

◆ メディア実績



10月15日 リビング和歌山



11月1日 NHK和歌山放送局「ギュギュっと和歌山」
11月2日 NHK関西「ぐるっと関西」



11月5日 毎日新聞和歌山版



11月19日 J:COM WEEKLYトピックス

掲載日	媒体	媒体名	タイトル
7月1日	WEB	EIKANSAI	地域の人々に伝えたい！和歌山の「ものづくり」を次の未来へと紡ぐ企業
7月20日	新聞	わかやま新報	ものづくり企業が終結 今秋「文化祭」初開催へ
7月22日	新聞	毎日新聞 (和歌山)	光る職人技 間近で知って 11月「ものづくり文化祭」初開催
8月1日	フリーペーパー	ほうぼわかやま Vol27	ものづくり at 和歌山「さびない」技術 コバルトシザー
8月1日	フリーペーパー	さくらノート Vol06	私の学生時代 町宗工芸四代目 町田智哉さん
8月25日	WEB	SMOUT/nativ media	ここから始まるものづくりの未来。和歌山ものづくり文化祭2022
10月1日	フリーペーパー	Natts	オープンファクトリーへ行こう！ものづくりの裏側へ
10月4日	ラジオ	和歌山放送 生放送PR	わんだーらんどの全開！火曜日
10月4日	テレビ	テレビ和歌山 KIZUNA TV	創業約100年 守り続ける伝統 漆器製造 町宗工芸
10月15日	新聞	リビング和歌山	手でつくる楽しさを 和歌山ものづくり文化祭
10月15日	新聞	ニュース和歌山	コラム 紀流 ～ものづくりの未来を紡ぐ
10月18日	テレビ	テレビ和歌山 KIZUNA TV	創業90年燃系專業 守り続ける伝統 林燃系株式会社
10月21日	WEB	南海電鉄note	(南海沿線のいい仕事#4) 和歌山県のものづくり
10月22日	新聞	ニュース和歌山	イベント紹介・告知記事
10月24日	Web	和歌山市広報note	職人技を見学・体験できる「和歌山ものづくり文化祭2022」①
10月26日	新聞	毎日新聞 (和歌山)	県内の職人技 集結 ものづくり文化祭ワークショップ
10月28日	Web	和歌山経済新聞	「和歌山ものづくり文化祭」初開催へ 職人と共にものづくり体験
10月31日	Web	和歌山市広報note	職人技を見学・体験できる「和歌山ものづくり文化祭2022」②
11月1日	テレビ	NHK ギュギュっと和歌山	体験しよう 和歌山のものづくり
11月2日	テレビ	NHK ぐるっと関西	体験しよう 和歌山のものづくり
11月3日	ラジオ	FM802	ホリデーススペシャル内で告知
11月5日	新聞	毎日新聞 (和歌山)	職人の技「触れて感じて」
11月5日	新聞	朝日新聞 (和歌山)	職人たちの現場 見て触って体験 20事業者一堂に 巧みな技術公開
11月6日	新聞	わかやま新報	職人の技を間近に ものづくり文化祭盛況
11月19日	ケーブルTV	J:COM	WEEKLYトピックス「和歌山ものづくり文化祭」
事後	WEB	アトツギベンチャー	令和4年度事業承継・引継ぎ支援事業広報活動
事後	冊子	近畿経済産業局	KANSAI OPEN FACTORY レポート

◆ 関連イベントおよびセミナー

貝塚オープンファクトリー勉強会



支援機関

日程：2月1日
場所：和歌山城ホール 会議室

貝塚オープンファクトリー実行委員長 延生康二氏を講師に招き、和歌山城ホールでオープンファクトリーの意義について意見交換を行った。
その後、支援機関や行政に向けて和歌山ものづくり文化祭の構想を説明した。

キックオフMTG



出展企業 支援機関 取材対応

日程：7月12日
場所：和歌山城ホール 大会議室

参加企業の顔合わせの場としてキックオフMTGを開催。全体説明とグループワークを行なった。

取材プレス：毎日新聞、和歌山新報、ニュース和歌山、(株)ウイング

VALUEデザイン経営セミナー特別編



出展企業

日程：8月4日10:30~12:00
場所：オンライン

ミテモ(株) 杉谷昌彦氏を講師に招き、各社の提供する体験コンテンツを自社の強み・ブランディングから深掘りする出展企業向け勉強会を開催した。

※ 和歌山県デザイン経営事業と連携

DESIGN WEEK KYOTO 産地勉強会



出展企業

日程：8月31日13:00~16:00
場所：岡田織物(株) ショールーム

DESIGN WEEK KYOTO代表 北林功氏を講師に招き、同イベントを紹介いただいたあと、産地や自社の魅力をいかに伝えるかグループワークで議論した。その後、岡田織物(株)と林撚糸(株)を訪問いただき、個別相談を受けた。

関西オープンファクトリーフォーラム



支援機関 出展企業 近畿経済産業局主催

日程：11月3日14:00~16:30
場所：和歌山城ホール 大会議室

千年未来工藝祭プロデューサー 内田裕規氏と越前箆伝伝統工芸士 小柳範和氏より基調講演。その後、日本工芸産地協会 原岡知宏氏、黒江るるる実行委員長 山家優一氏、和歌山ものづくり文化祭実行委員長 菊井健一も加わり、トークセッションを開催した。

もの文×桐蔭×近附 キャリア教育授業



地域学校 取材対応

日程：11月4日10:00~12:00
場所：和歌山城ホール 屋上テラス

桐蔭と近大附属和歌山の中学3年生を対象に、きのくに信用金庫 西政也氏と実行委員長 菊井健一が対談形式でキャリア教育授業を開催。なお、このほかに菊井より両校に向けたオンライン授業(9月26日)を行った。

取材プレス：朝日新聞

和歌山ものづくり文化祭 前夜祭



出展企業 支援機関 取材対応

日程：11月4日17:00~18:30
場所：和歌山城ホール 展示室

設営を迫った会場で、関係者のネットワーキングを目的とした前夜祭を開催。出展企業、関係者、支援機関が参加し、取材対応も行った。
各社1分間ずつのPRのあと、各社ブースにて順番に事業や本祭での体験内容の説明をし、翌日からのシミュレーションを兼ねた交流をおこなった。

取材プレス：朝日新聞、毎日新聞、わかやま新報、日本経済新聞社



7月20日付 わかやま新報

光る職人技 間近で知って



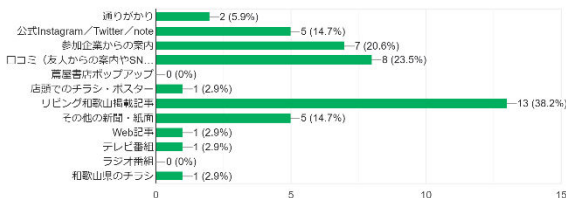
11月「ものづくり文化祭」初開催



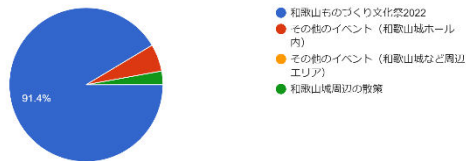
7月22日付 毎日新聞

◆ 来場者アンケート

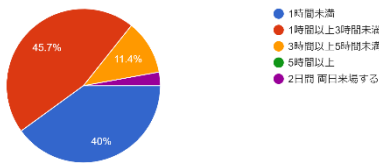
和歌山ものづくり文化祭2022を知ったきっかけを教えてください
34件の回答



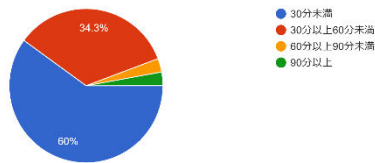
和歌山城ホール・広場への来場目的を教えてください
35件の回答



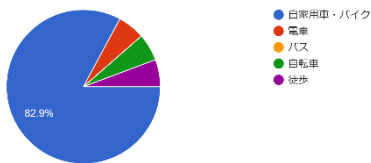
会場での滞在（予定）時間を教えてください
35件の回答



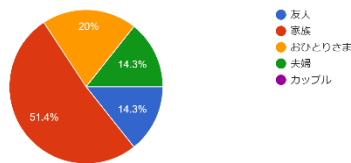
自宅から会場までの所要時間を教えてください
35件の回答



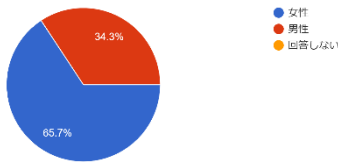
自宅から会場までの主要な交通手段を教えてください
35件の回答



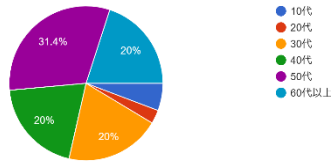
どなたと来場されましたか
35件の回答



性別を教えてください
35件の回答



ご年齢を教えてください
35件の回答



来場者アンケート総括

イベントを知ったきっかけはリビング和歌山(38.2%)が最多。地域密着メディアの影響力は大きい。

本イベントを目的に来場した人が大半(91.4%)であり、60%が1時間以上の滞在時間となっている。

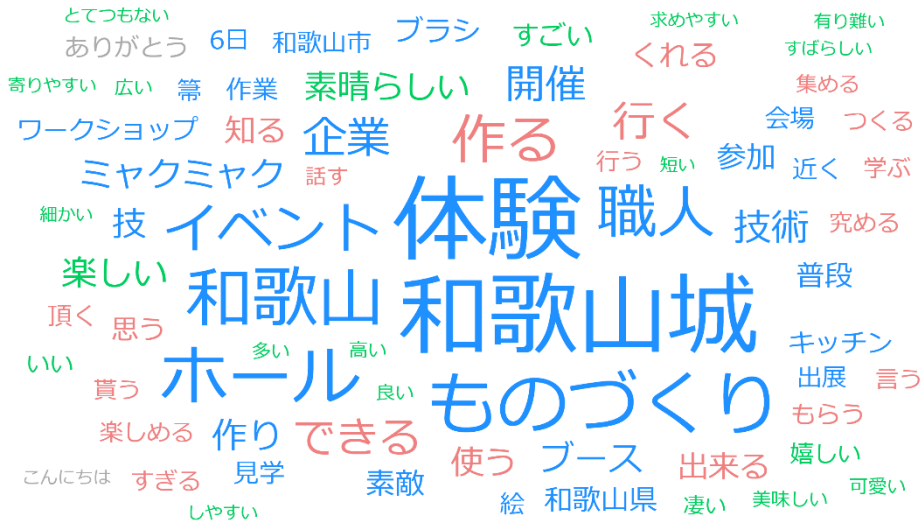
会場から30分未満の来場者が60%であり、交通手段と併せてみると自家用車・バイクで来た近隣の来場者が多かったとかがえる。

家族連れが半数ではあるが年齢・性別にばらつきが多く、当日の会場には老若男女さまざまなセグメント層の姿が見られた。

アンケート回収率が低くn=35なので、次回以降はアンケートへのアクセスを良くする、回答者に抽選でプレゼントを用意するなど、回収率を上げる工夫が必要である。

来場者のSNSやBlog投稿

SNSやBlogでの投稿を収集し、「和歌山ものづくり文化祭」といっしょに使われたワードを可視化した。



<https://textmining.userlocal.jp/>

靴下にニットにエコファー、ハサミ、漆器。桐ダンス
建具に木の家に板金・・・

和歌山ものづくりすごいです。応援したい！！

[Instagram @makihatamura](#)

地元の企業の卓越した技術と職人技を見て体験できる
文化祭。

和歌山城を望むロケーションも素晴らしく、文化の秋
を満喫出来ました

[Instagram @unoka.k](#)

和歌山のものづくり企業は、知らないことたくさんあ
ります。

体験を通じて知ること未来に繋がります。

[Instagram @keiichrokodama](#)

ものづくり文化祭へ。こういう体験が好きな娘にとっ
てワクワクなもの。

来場者の年齢層も広く、大盛況でした

[Instagram @megunokimagure](#)

実際につくることで、職人さんの技術のすばらしさを
体験できました。

このように素晴らしい企業がたくさんあることを知り、
とても感激いたしました。

[Instagram @spicato_inc](#)

子どもから大人まで、本当にたくさんの方がものづく
りに熱中されていました

子どもが体験しているのを見守っていたお母さん、我
慢できずに自分もやってみる！という光景も。

職人さんの話を聞いて、技を体験できるなんてそうそ
うない機会だと思います。伝統工芸や町工場の職人さ
んなど、16ブースもあるので見ているだけでも楽しい。
もちろん体験した方がもっと楽しい。

みんなの「ものづくり欲」が刺激されているようでし
た！

[Instagram @satomi_omagari](#)

ホント職人さんって尊敬します！普段僕がやっている
作業を、丁寧でキレイで一つの行程でも手加減なしで
職人技がいっぱいでした。技は見て盗め！勉強になり
ます。

ご指導やお話をさせていただいた職人の皆さま、今日
はありがとうございました！

[Instagram @jun.workshop](#)

行くのが出遅れたので、体験はひとつもできんかった
けども。楽しかった。。アツいぞ和歌山！

和歌山城の紅葉もチラ見。1時間くらいの滞在で旅気分

[Instagram @yukimado](#)

◆ 参加企業アンケート

もの文に参加したうえでの感想を選択してください。

[詳細](#)

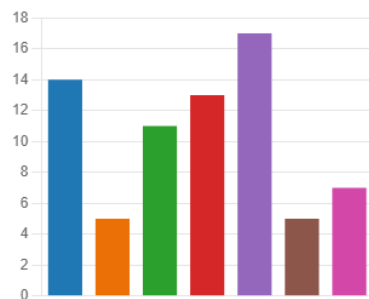
● 期待以上だった	19
● 期待通りだった	0
● 期待以下だった	0



もの文に参加するにあたり、期待していたことを選択してください。(複数回答可)

[詳細](#)

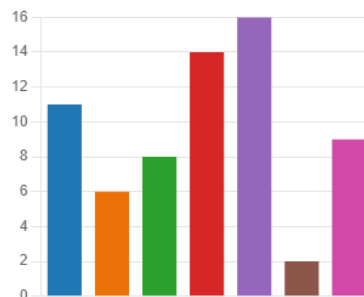
● 企業PR	14
● 商品・製品・技術PR	5
● 従業員の意識改革	11
● 地域・お客様とのコミュニケーション	13
● 出展企業との交流	17
● 新規・中途採用	5
● チャレンジできる場	7
● その他	0



もの文に参加して、得られたことや実感したことについて選択してください。(複数回答可)

[詳細](#)

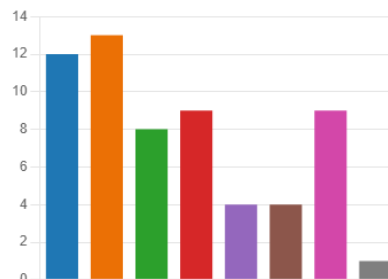
● 企業の認知度が向上した	11
● 商品・製品・技術の認知度が向上...	6
● 従業員が業務に対して意欲的になった	8
● 地域・お客様とのコミュニケーションに...	14
● 出展企業と新たな交流が生まれた	16
● 採用につながった(面接をした等を...	2
● これまでできなかったチャレンジができた	9
● その他	0



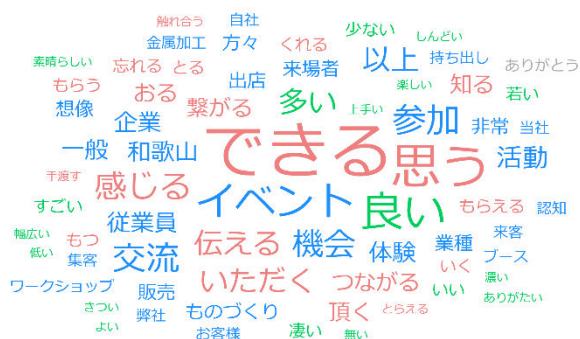
今後、もの文に対して期待することを選択してください。(複数回答可)

[詳細](#)

● ものづくり産地の県「内」への発信	12
● ものづくり産地の県「外」への発信	13
● もの文の規模拡大	8
● 出展企業の交流の場の提供	9
● 他地域のオープンファクトリーとの交流	4
● 来場者数増加	4
● 出展企業の学びの場の提供(体...	9
● その他	1



和歌山ものづくり文化祭に参加した感想



Bto Bの職種で中々一般の方相手に接客する事がなかったのが、参加した従業員共々、良い経験になりました。

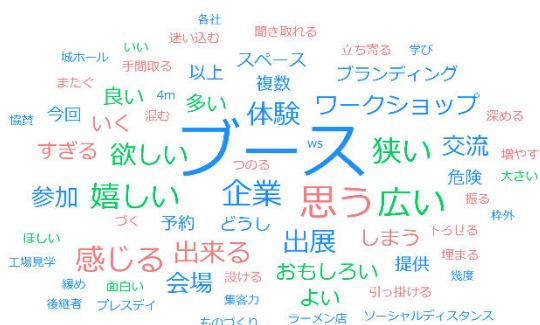
子供達に接する機会がなかったので商品を手渡した時のキラキラした笑顔が今でも忘れられません。

普段の業務ではできないことがチャレンジできたので当社にとって得るものは多かったです。

異業種でのものづくりの仲間ができたのはとてもありがたく思いました。

このような活動を続けていくことが、地域のためにも、日本のためにもなると確信しました。

今後、改善してほしいことや意見



ブーススペースの改善 (狭い・つまづく)

会場・参加企業数の拡大

従業員も参加できる交流の場や工場見学会の実施

来場者の滞在時間を延ばす施策の実施

複数参加者で一つのを完成させるなど、ロボを検討できる場と時間

出展企業の学びの機会(ブランディングセミナー等)の実施

おすすめ飲食店マップなど、近辺店舗の巻き込み

参加企業アンケート総括

「期待以上だった」の回答が100%であり、出展者の満足度が高いイベントであったと言える。

参加前の期待の上位3項目が「出展企業との交流 (90%)」「企業PR (74%)」「地域・お客様とのコミュニケーション (68%)」に対し、参加後の収穫の上位3項目が「出展企業との新たな交流 (84%)」「地域・お客様とのコミュニケーションによる新たな気づき (74%)」「企業の認知度向上 (58%)」である。当初期待していた成果が実際に得られたことがうかがえる。

参加した感想(自由記述)では「交流」「伝える」「機会」といったワードの頻度が高い。「普段接さない人と・・・」「普段はできないことが・・・」という声も多かった。通常業務では得られない経験が得られたことがうかがえ、オープンファクトリーという場を継続して設ける意義がある。

「今後期待すること」の選択では、県内外への発信を期待する声をもっとも多い結果となった(県内63%、県外68%)。「和歌山ものづくり文化祭」の価値を高め、魅力的なコンテンツとしていくことが求められている。

改善点や意見(自由記述)ではブーススペースが狭い・段差でつまづくといった声が多かった。また、他にも来年以降の運営に向けた建設的な意見が得られた。このような声が上がること、参加企業が当事者意識をもって自主的に参加していた証左と言える。次回開催では企業から挙がった意見を活かし、各社が魅力を発揮できる場を作っていく運営が求められる。

◆ 学生ボランティアスタッフ

【学生ボランティアスタッフの募集方法】

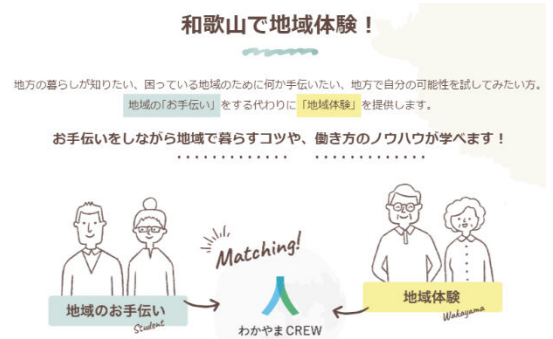
募集方法：関係人口マッチングアプリ「わかやまcrew」（県移住定住推進課）

募集内容：企業ブースの補助スタッフとして募集。11月5日～6日の2日間参加。

謝礼：一律4,000円 ※宿泊・交通費補助として、実行委員会より負担
昼食支給 ※各社負担
イベントTシャツ2枚支給

募集人数：15名（各1名×15企業ブース）

募集期間：8月4日～9月18日 先着で締切



学生ボランティアの声

職人さんの手仕事を間近で見てお手伝いさせていただきながら、今まで気にしていなかった誤差に気付かされたり自分の力量不足に気付いたり、お世話になった職人さんを見習ってもっと気遣いができるように日々頑張りたいです。二日間とも忙しく他のブースを見に行けなかったのが残念でしたが、大盛況で楽しかったです。

緊張していた中、のんびり接していただいたおかげで気軽にお手伝いすることができました。卒業後の進路にヤキモキしていた中、モノを作ると言う仕事にも興味が湧きました。職人さんのお人柄もよく、穏やかにこれから就活に励めそうな気がしました。想像していた10倍近くお客様が来てくださって、とても意欲的な二日間でした。

職人の方々とお話をすることができ、とても新鮮で楽しかったです。イベントを通して、再度和歌山の魅力を認識し、ものづくりに対する情熱を肌で感じることができました。運営本部の皆様ともお話ができました。全体運営の流れからイベントを開催するにあたってのこだわりについてなど、様々な視点から新しい価値観を教えてくださいました。この経験は、一生の宝物です。

和歌山ものづくり文化祭を通して、ものづくりに関わる様々方の思いに触れることができました。参加したブースも職人さん同士とても仲が良く、分からないことがあればすぐに聞きに行けそうな雰囲気を感じ、皆さまが商品のことを心から好きだということも節々から感じるようになりました。ボランティア体験をさせていただき、ありがとうございました。

◆ 評価・検証

準備および当日運営

直前期までの約10か月、実行委員長・副実行委員長・運営ディレクションの3名で準備をおこなった。外部から必要な協力・支援を受けたこと、勉強会やチャットでのコミュニケーションを通じて出展企業の自主性を促したことが、コンパクトな運営体制での実行を可能にした要因だと考えている。また、立ち上げ当初からステイクホルダーとして協力いただいた県庁やきのくに信用金庫が当日運営に加勢いただいたことで、万全の本部体制を構築できた。

会場ロケーション

昨年オープンした和歌山城ホールはアクセスが良く、幸い天候にも恵まれたことで、和歌山城を望む最高のロケーションで開催できた。ガラス扉を全開し広場からの動線を作ったこと、各ブースの間に壁を作らず枠のみで仕切ったこと、シンプルで分かりやすいキービジュアルを随所に掲出したことで、開放的ながら緩やかな一体感のある空間となった。

メディア向け広報および集客

メディアにも大きく注目され、広告費をかけずに事前告知をおこなったことで、当日の来場者に繋がった。地域を中心に5803名の来場を記録し、さまざまな年齢層・性別の人の姿が見られたことから、目的のひとつであった「ものづくりの魅力を企業・職人が主語となって伝える」場を創出できたと言える。

学生ボランティア

各ブースに学生ボランティアを募集したことでそれぞれの事業内容に興味のある学生が県内外から参加した。新しい関係人口を創出でき、移住定住の推進を意識した取組となった。

参加企業アンケート結果

ほぼ全ての参加企業が来年以降の開催・参加を希望しており、参加企業から見ても体験と学びを得られる有意義な場であったと評価できる。一方で今回は、直前まで参加企業どうしの交流が不十分であった。来年以降は交流や学びの機会を増やすことで、参加企業のエンゲージメントと和歌山ものづくり文化祭の発信力を同時に高める仕掛けが求められる。また、会場設営で協力を依頼した2社から「持ち出しがきつい」「来年は人数が少ないので参加できるか分からない」という声が上がったことは、運営として強く受け止めたい。持続可能な取組としていくために、貢献度の高い企業に負担が偏らない運営体制を構築する必要がある。

売上実績

2日間で2,948千円の売上となり、そのうち半分以上が体験ワークショップでの売上であった。うち1/3がキャッシュレスで決済されており、高額商品がクレジットカードで販売されたことから、各社共通のキャッシュレス決済端末を導入したことも売上に寄与したと言える。

待ち時間に周辺で飲食をしたり、和歌山城の散策につながったりといった波及効果も見られた。和歌山で「産業観光」「魅せるものづくり」がコンテンツとして成立するという実例を作ることができた。

◆ 次回開催予定

和歌山ものづくり文化祭2023は、

2023年12月2日(土)・3日(日)

和歌山城ホールにて開催予定です。